

【記載例】

IV. アセスメント結果シート					
作成年月日	2022 年 10 月 1 日	作成年月日(前回)	2022 年 8 月 1 日		
対象者					
ふりがな	●● ●●●	生年月日	1997 年 10 月 23 日 (24) 歳		
氏 名	●● ●●●	手帳の種類・等級	精神保健福祉手帳2級		
		診断名等	統合失調症		
支援者					
ふりがな	●● ●●●	所属機関	●●支援センター		
氏 名	●● ●●●				
I. 就労に関する希望・ニーズ ※項目名をクリックすることで、該当する項目の記載内容を確認できます。					
就労等の希望	一般就職				
職種・仕事の内容に関する希望	最も興味があるのはライターや編集者などですが、難しければデータ入力などの事務職を希望しています。				
希望する配慮等	定期的な通院のための休暇取得や、可能な範囲でのテレワーク(人間関係でのストレスを軽減するため)を希望しています。				
希望する支援	仕事の進め方など気になる点についてこまめに相談に乗っていただけると安心して職務に取り組めます。				
II. 就労のための基本的事項 ※グラフ内の項目名をクリックすることで、該当する項目の記載内容を確認できます。					
支援・配慮なし 支援・配慮あり					
	S	協同評価前の 自己評価	協同評価		
			C	B	A
指示理解		B			
安全な作業	●	C			
仕事への責任感	●	B			
正確な作業		A			
作業スピード		A			
細かな作業		C			
作業への集中	●	A			
変更への対応		A			
安全な道具等の使用					
道具等の使用	●	A			
メモの活用	●	B			
持続力		A			
作業への積極性	●	A			
	S	協同評価前の 自己評価	協同評価		
			C	B	A
規則の理解	●	A			
出勤状況		A			
欠勤等の連絡		A			
日常生活動作		A			
身だしなみ	●	A			
体調管理		A			
体調不良時の対処	●	A			
交通機関の利用	●	A			
生活リズム	●	A			
ストレス管理		A			
通院・服薬		A			
	S	協同評価前の 自己評価	協同評価		
			C	B	A
挨拶・返事	●	A			
同僚や上司との会話		A			
相手への伝達		A			
相手への応答		A			
報告・連絡・相談		A			
感情のコントロール	●	A			
共同作業		A			

Ⅲ. 就労継続のための環境 ※領域名をクリックすることで、該当する領域の記載内容を確認できます。
【 職務への適応 】 口頭による作業指示だけでなく、作業を実施する上でのポイントを示した手順書があると正確な作業遂行を実施しやすくなります。また、慣れるに従い、少しずつ担当職務の幅を拡げていただくとモチベーションの維持につながりやすくなります。
【 労働条件の設定・変更 】 可能であればテレワークを希望しています。
【 職場の人に障害のことを理解し配慮してもらうこと 】 仕事の進め方など気になる点についてこまめに相談に乗っていただくと安心して職務に取り組めます。
【 職場の設備・機器等 】 特になし。
【 職場での適応行動・態度 】 仕事への責任感が強く、頑張りすぎてしまうことがあるため、定期的な面談の場において作業のペース目標の設定などの相談に乗っていただくと安定して働きやすくなります。
【 体調、疲労・ストレス、不安、感情コントロール等 】 ストレスの対処方法を検討できていますが、悲観的に物事を捉えてしまうなどのストレスサインの把握が遅れストレスが高まった場合には、就労支援機関の支援者とともに対処方法を整理すると、リラクセーション方法など有効な手立てを実践することができます。
【 症状の悪化・再発、二次障害 】 体調悪化のサインが見られた場合には、早めに医療機関に相談することが有効です。
【 職場の人間関係 】 職場の人間関係で些細な面が気になり悩みを抱えてしまうことがあるため、定期的な面談の場で確認できると疲労やストレスの蓄積予防につながります。
Ⅳ. 総合協同所見
【 ストレngths(長所)と課題等 】 ○ストレngths ・アセスメント結果からは、仕事への意欲や責任感が強く、規則の遵守なども着実にできる他、基礎学力を有している点などが長所であると考えられます。 ○現状と今後の課題 ・1か月間のアセスメント期間中、当初の1週間は強い緊張を自覚しながらも簡易な事務作業をできるだけ多くこなすことに精一杯取り組み、週3日の通所ができていました。しかし2週目に入ると、疲労の蓄積から、朝の起床が遅れる日などが見られました。支援者との面談により、オーバーワークにならないような作業のペース目標を設定し、呼吸法などのリラクセーション方法などを導入したところ、安定した通所が可能になりつつあります。 ・今後の課題として、幕張ストレス・疲労アセスメントシートなどを用いてストレスサインの把握に努め、疲労やストレスへの適切な対処(無理のない作業ペースの維持、適切なタイミングによる休憩取得、リラクセーション方法の活用など)を講じていくことが望まれます。
【 必要な支援と配慮 】 ○職場において配慮が望まれる事項 ・作業意欲が非常に高い反面、慣れない環境では緊張が強く必要以上に頑張りすぎてしまう面があるため、短時間勤務から開始することが望まれます。指示理解力が高いのですが、緊張が高まると十分に理解できないことがあるため、重要な点は書面でいただくことができると確実な理解につながります。 ・人間関係では些細な面が気になり悩みを抱えてしまうことがあるため、定期的な面談の機会を設けていただき、気になる点をこまめに確認することを継続していただくことにより、疲労・ストレスの蓄積予防につながります。また、疲労が蓄積してくると悲観的に物事を捉えてしまう場合がありますが、信頼できる支援者と面談を行い考え方の整理を行うことにより、気持ちを立て直すことが可能です。 ○その他 ・就職に際し障害を開示するかどうか、本人、ご家族ともに今後相談して決めていきたいとの意向です。